

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース/国会
- 3面 読者のページ/まんが/パズル
- 4面 ~5面 国民平和行進/気候正義って/ホット
- 6面 春こそ片づけを/文化情報/母の歴史
- 7面 新婦人の活動/主張/いっしょにあそぼ!



大阪市 若園博子 (78)

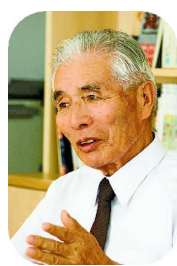
新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

5月には浅間山を背景に菜の花畑が見ごろに (写真提供 節夫文庫)



長野・佐久市

「らいてうの家」や、戦没画学生の作品が展示される「無言館」など見どころが点在する長野県上田市周辺。隣接する佐久市に、農民連初代代表常任委員を務めた故小林節夫さんの記念館といえる、「節夫文庫」が開設されたと聞き、訪ねました。



故・小林節夫さん

受け継がれる運動の起点

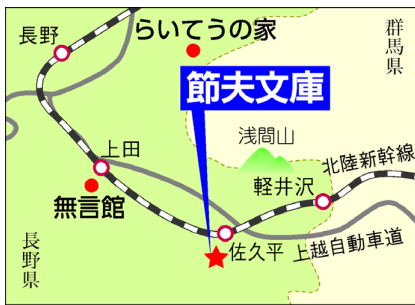
北は浅間山、南は八ヶ岳を眺望できる、風光明媚な佐久市は、東京駅から北陸新幹線で約70分。小海線・滑津駅から徒歩10分程の所にある文庫

「節夫文庫」

食と農を語り、つなぐ

は、小林さん宅の敷地にあります。

節夫さんの娘で節夫文庫事務局のひとり、湯浅ちなみさんと、運営委員会共同代表の依田発夫さん(90)が出迎えてくれました。



こばやしせつお (1925~2016)

佐久市議会議員を経て、1989年結成した農民連(農民運動全国連合会)の初代代表常任委員に。翌90年から始まった新婦人との産直運動の発展に尽力。学習会の講師をはじめ、新婦人発行の「月刊女性&運動」にたびたび寄稿し、エッセー「農の風景」(2004年~06年)を14回連載。著書『怒りの炎 農星霜と夢』『農への銀河鉄道 いま地人・宮沢賢治を』他



節夫文庫の玄関前で。左から湯浅さん、節夫さんの妹・弓子さん、依田さん、柳澤さん、節夫さんの妻・翠さん

入れればいっぱいになる広さです。壁には自慢の乳牛と写る姿、横断幕を手に行進する勇姿、仲間と語りう小林さんの写真などが掛けられ、あたたかな雰囲気漂う空間です。

早速、「節夫文庫開設と節夫の足跡」の動画(30分)を視聴。そこには、戦後の農民運動の一

運動の原点「乳価闘争」

1950年代半ば、小林さんは農業改良普及員の職を辞し、乳牛を購入し、農家の道を歩み始めます。間もなく飼料穀物の高騰と低い生乳買取価格に多くの酪農家は苦しみ、小林さんたち佐久酪農協組合青年部は、生産費の調査を開始。会社の買取価格では、農家は赤字を免れないことを突き止め、乳業会社に「生産費に見合う乳価を」と迫りました。小林さんが後に「農民運動や社会に目を向けるきっかけとなり、人生の大きな転換点になった」という佐久の乳価闘争です(※)。要求額には届かなかったものの、酪農家自らが立ち上がり、行動したことが報道され、全国の酪農家を励ました。

さらには73年のオイルショックでは農業資材が高騰。しかし小林さんたちは便乗値上げであること

端や、野ざらしのドラム缶に保管された輸入塩蔵野菜の実態を知る港見学、生産者と消費者を結ぶ産直運動、国民の食糧と健康を守る運動全国連絡会の先駆けとなった長野食健連のスタートなど、今も受け継がれる運動の起点となった場面が次つぎと映し出され、驚きの連続でした。

を突き止め、値下げ運動をすすめます。これらのたたかひの中で、小林さんは農民の生の声や要求を聞くことが第一歩であること、さらに全国的な成果を得るには、農民運動のナショナルセンターが必要だと確信。その思いはやがて農民運動全国連合会の設立に結実していきます。 <2面へ>

※乳価闘争 1950年代、政府は戦後の食料増産政策を転換し、酪農を奨励。養蚕に代わる現金収入として佐久の多くの農家が一頭飼いの酪農家となった。しかし米国と協定を結んだ政府はバターや余剰脱脂粉乳の大量輸入を開始。農家の経営は、販売飼料の高騰も相まって急速に悪化。61年2月、生産者らは乳業会社が買い取る生乳価格の値上げを求め、乳業工場に要求するが、決裂し、ストライキを決行。乳児と病人向けを除き、一滴も生乳を出荷しなかった。

5月6日号は休刊です

